2023年（令和5年）
4月号（No. 935）
公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円
会員の会報購読料は年会費に含まれています
URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-room@jac.or.jp

昨秋、奇跡の復活を果たした只見線沿線の山といで湯

福島支部　星　賢孝

2011年夏の新潟・福島豪雨により大きなダメージを受けた只見線（会津若松～小出間）は復旧が絶望視されていたが、地元の懸命な努力もあって昨年10月1日、奇跡的に復活した。沿線の風景を30年間撮り続けてきた星会員に、ローカル線としての只見線の魅力と、奥会津に点在する山といで湯を紹介してもらった。

只見線の復活

2011年夏の只見川豪雨水害で、只見線は会津川口駅～只見駅間の4ヶ所の鉄橋が被災した。復旧には80億円もの巨費が予想され、赤字路線の只見線は終わったと誰もが思っていたが、2022年の秋に只見線は奇跡の復活を遂げた。

只見線は会津若松～新潟県・小出間を走る延長135㎞の小さな鉄道である。ローカル線は利用する住民が減少して巨額の赤字路線となり、その存続が全国的に問題となっているが、加えて温暖化の影響で100年に1度の甚大な豪雨水害が頻発し、被災した路線はほぼ廃線の運命をたどっている。そのなかにあって、復活を遂げた只見線の奇跡の理由を思考してみたい。

インバウンド観光の切り札

本来、鉄道は沿線の物流や交通インフラの核として敷設されたものであるが、地方の人口減少と自動車の普及によって、その役割が急速に終焉に向かっていることは既定の事実である。その意味では只見線の役割も被災時点で完全に終わったわけであったが、只見線が復活した最大の理由は、インバウンド観光の切り札としてその存在価値が認められたことが最大の理由である。

尾瀬を源とする只見川は豪雪の奥会津を貫き、会津盆地で阿賀野川と合流し日本海に注いでいる、日本を代表する悠久の河川である。只見線はその奥会津の只見川に沿って敷設されていて、魅力の最大の特徴は雄大な四季の絶景にある。

春の桜花と秋の紅葉はもちろんであるが、日本の四季でいちばん弱い夏と冬にこそ只見線の絶景はその輝きを増してくる。夏の幻想的な川霧と冬の見渡す限りの雪華爛漫は、国内外から驚嘆の吐息が漏れてきているほど。

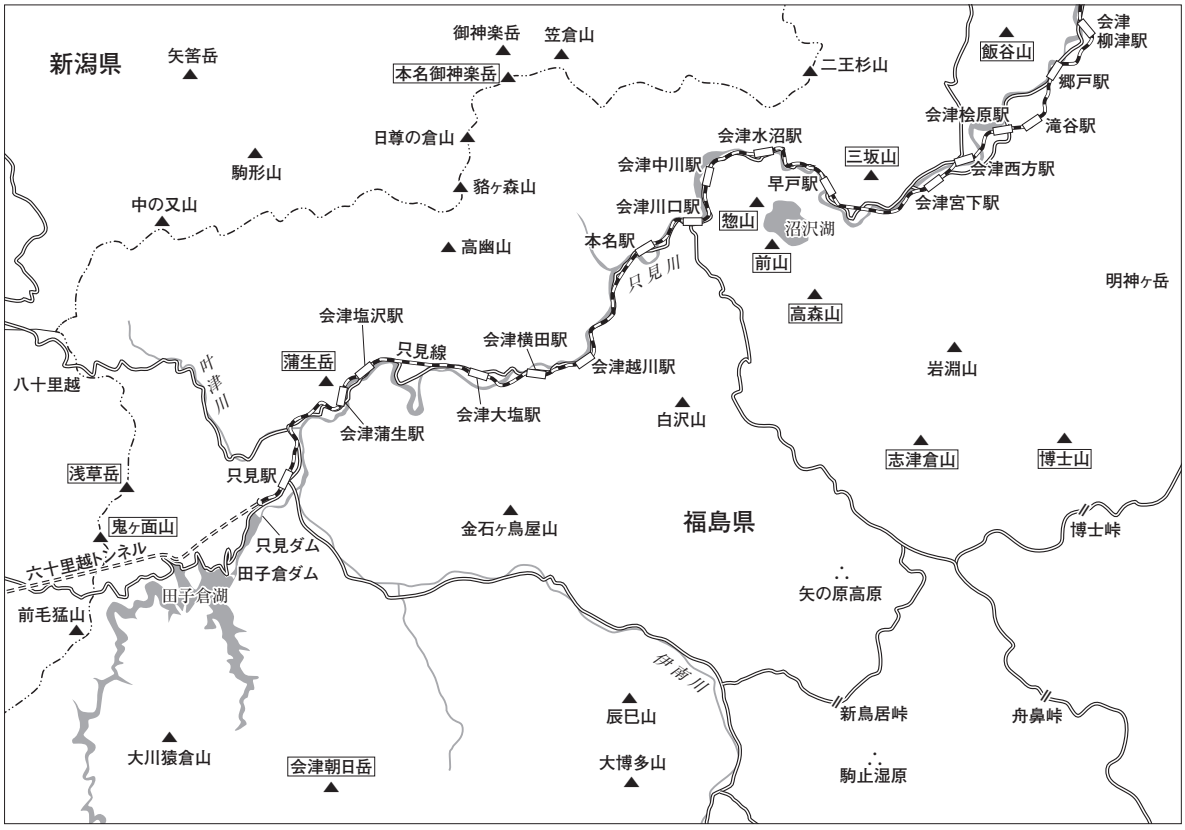
私はその驚嘆の絶景を世界に知

川霧が棚引く只見川と第1只見川橋梁

目　次

昨秋、奇跡の復活を果たした
只見線沿線の山といで湯 ……1
連載■ご当地アルプス登山案内
　31大阪アルプス ……5
　32和気アルプス ……6
第12回登山教室指導者養成講習会を小諸市と黒斑山で開催 ……8
日本登山史の空白を埋める円空の存在
穂高岳現存最古の文献は円空仏の背銘 ……10
東西南北 ……12
図書紹介 ……13
会務報告 ……15
新入会員 ……16
図書受入報告 ……16
ルーム日誌 ……17
会員異動 ……17
INFORMATION ……18
編集後記 ……19

▶日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木 ……10～20時
水・金 ……13～20時
第2、第4土曜日 ……閉室
第1、第3、第5土曜日 ……10～18時



らしめようと、年間３００日、只見線だけを30年撮影してＳＮＳなどで発信してきたが、只見線被災後は、廃線の危機に瀕した地域の宝の只見線をさらに救うべく、情報発信を直接海外にも展開することにした。

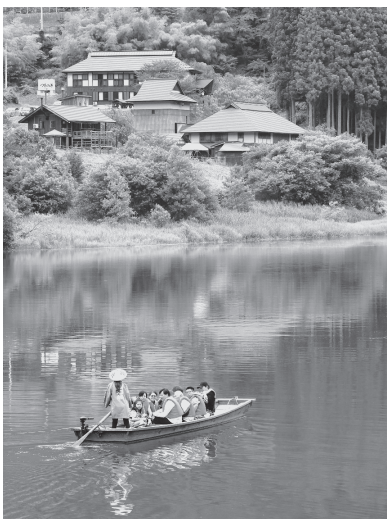
活動は主に中国や台湾などの東南アジアでの現地写真展や講演会であるが、昨年は映画『霧幻鉄道・只見線を３００日撮る男』も完成して、全国で上映された。アフターコロナで行動が比較的自由になった本年は、海外での上映イベントなどの開催を計画している。

只見線復活で地域経済を活性化

もちろん私以外にも民間団体は様々な形態で只見線を応援し支援してきたが、そうした地道な活動が実り、コロナ禍以前の沿線にはインバンド客が目に見えて増大し、沿線は人々が行き交い活況を呈する事態となった。

福島県など行政も沿線住民も、実はそうした活況を間近に見て、只見線による沿線地域活性化の重要性を深く認識し、只見線復活に向けて大きく舵を切ることとなった。復旧費用の巨額負担と、上下分離による被災区間のインフラ基盤は行政が取得し、営業赤字３億円も行政が負担することでＪＲと合意し、只見線は昨年10月に奇跡的な完全復活が達成された。

しかし、復活営業再開はしたが、それでも実は只見線の赤字が解消されない事実を私たちは理解しなければならない。その上で、只見線は赤字でも、国内外から来てくれる観光客が沿線に宿泊し、買い物をし、大勢が集うことによる沿線地域経済の活性化こそが、只見線の復活の本来の意義であり目的である。只見線の存在価値も全てはそこにあるのだということを、只見線応援団も国民も深く理解し


霧幻峡の渡し船と早戸温泉つるの湯

ていただきたい。その意味で、今回の復活は私たちにとっては、本来の目的のためのスタートラインにようやくたどり着いただけであり、今後の活性化への取り組みと責任について、私たちは対峙する覚悟を決めているのである。

　復興後の只見線の想定以上の盛況を受けて、国もまた新機軸を打ち出そうとしている。国は赤字ローカル線と沿線の町づくりを一体となって進める鉄道には、赤字の75％を援助する仕組みを今、検討しているという。正に只見線復興の波及効果が、国をして政策の変更を促すという驚きの成果だとも言える。

　只見線沿線には、只見川の幽谷に沿って幽谷山塊が屹立し、魅惑のいで湯や名湯もまた数知れない。以下、その一端を紹介しよう。

“会津のマッターホルン”蒲生岳と真奈川橋梁

只見線沿線の山といで湯

　会津若松を出発した只見線の車窓には、見渡す限りの田園が広がってくる。春は緑の大海原となり、秋は黄金色の波が揺れる。そして、冬は白銀の絨毯が敷き詰められて、いやが上にも旅人の郷愁を誘う。その旅情をさらに高めるのが会津の名峰・磐梯山であり、白銀の霊峰・飯豊連峰である。

▲博士山（1482m／柳津町）

　会津盆地を通り抜けると列車は山岳地帯に入っていく。大成沢集落～林道博士峠の駐車場から登山開始。歩行時間4時間35分と、奥会津の山としては汗を絞られる山だが、ブナ林の爽快感とシャクナゲの愛らしさに癒される山だ。

　柳津町の登山・温泉情報の詳細は柳津町観光協会（0241-42-2346）に。登山後のいで湯は、帰路にある西山温泉の「せいざん荘」（0241-43-2727）へ。大浴場、露天風呂ともに広々としていて、ゆったりと山懐の風景が楽しめる。

▲飯谷山（783m／柳津町）

　鎮守飯谷神社奥の院・飯谷山は、歩行時間2時間20分と、比較的楽に登れる。小巻集落から野老沢林道を上り駐車。山頂からは飯豊連峰も望まれ、柳津虚空蔵尊の上空には磐梯山の鋭峰も俯瞰できる。

　登山後の癒しの湯は「柳津温泉・つきみが丘町民センター（0241-42-2302）へ。只見川を望む湯船でのんびり寛いで、登山の疲れを癒したい。

▲志津倉山（1234m／三島町）

　歩行時間4時間10分。列車は柳津を過ぎると会津宮下に到着する。巨木が林立するブナ林と巨大なスラブ状の岩壁が屹立する「雨乞い岩」の雄大さに圧倒される、侮れない山だ。間方集落を進んだ林道に登山口があり、そこに数台は駐車できる。霊山として崇められた雨乞い岩は、日照り続きに慈雨を願う信仰の山だ。

　三島町の登山・温泉情報の詳細は三島町観光協会（0241-48-5000）に。登山後の癒しの湯は只見線早戸駅に近い、源泉掛け流しの「早戸温泉つるの湯（0241-52-3324）」が超人気である。

　只見川の霧幻峡の一角にあり、大きな浴場からは渡し舟が行く霧幻峡の絶景が見えるかもしれない。

▲三坂山（832m／三島町）

　山道は美坂高原から始まっている。歩行時間2時間20分。美坂高原は山に囲まれて、小さな盆地のように開けている。そこに駐車をして登路をたどる。

　元は送電線巡視路で、登山用の道標は少ないが整備は良くされていて、比較的楽に登頂できる。山頂には東北電力の大きな反射板があるが、眼下には只見川峡谷の雄大な眺めが広がり、彼方には磐梯

山や飯豊連峰が眺められる。下山後の入湯は前述の早戸温泉が近い。

▲本名御神楽岳（1266m／金山町）

只見線本名駅が起点となる。歩行時間5時間30分と、奥会津では厳しい山である。会越国境にまたがって鎮座し、雪食地形の険しい岩稜やスラブが周囲を威圧している。御神楽本峰まで狙うなら、さらに片道1時間を要するが、奈落の底から屏風のごとく屹立する大スラブには圧倒されるだろう。

金山町での登山後には豊富な温泉がそちこちで待ち受けている。大塩温泉と玉梨温泉はともに天然炭酸温泉と絶景が人気を呼んでいる。湯倉温泉もひなびた山里の風情が残っている。金山町の登山・温泉情報の詳細は金山町観光物産協会（0241-42-7211）に。

▲高森山（1100m／金山町）

沼沢湖の外輪山である。歩行時間3時間20分。登山口は旧玉梨牧場。基本ブナの山であるが、やせ尾根もあり慎重を要する。山頂は狭いが、浅草岳や御神楽岳、沼沢湖が一望できる。

下山は沼沢湖方面に取ると太いブナの林の尾根が待ち受けている。林道を横切ると沼沢湖畔の集落にたどり着く。下山後の温泉は早戸温泉が近い。登山口と下山口が違うので駐車時に注意されたい。

▲惣山・前山（816m、835m／金山町）

沼沢湖は5400年前の噴火でできたカルデラ湖で、2つの山はその内輪山。沼沢湖を周遊するコース上にあり歩行時間は4時間。

登山は福沢集落側から開始する。変化に富んだ尾根を1時間30分ほどで惣山山頂にたどり着く。眼下には沼沢湖の絶景が広がっている。山頂の車道を離れ進路を左に下り、鞍部からさらに登ると前山山頂に到着。眼下には沼沢湖の全容と彼方には秀麗な磐梯山が望まれる。登山路をさらに下ると沼沢湖畔にたどり着く。下山後の入湯は早戸温泉が近い。

▲浅草岳・鬼ヶ面山（1585m、1465m／只見町）

只見線只見駅を起点とする会越国境の名峰。歩行時間7時間10分。旧田子倉駅近くの登山口を出発する。田子倉湖から林立するブナの森の急登で汗を絞りながら格闘すると、浅草岳山頂に到着。入叶津方面に少し下ると、浅草岳の象徴である頂上大草原が広がっている。今回は鬼ヶ面山回遊なので左にルートを取る。雪食地形が造った鬼ヶ面山の峻険な岩稜に圧倒されながら慎重に登山路を進むと、六十里越の下山口に到着できる。

只見町の温泉は伊奈川を見下ろす深沢温泉と、町民が憩う只見温泉がある。只見町の登山・温泉情報の詳細は只見インフォメーションセンター（0241-82-5250）へ。

▲蒲生岳（828m／只見町）

只見線蒲生駅に登山口がある。歩行時間2時間40分。その鋭い山容から〝会津のマッターホルン〟とも呼ばれている。低山とはいえ上部は急峻な岩稜帯で、鎖とロープを伝っての登攀となる。孤高の山頂の眺望は360度。奥会津の絶景が彼方まで広がっている。下山後の温泉は只見温泉で。

▲会津朝日岳（1624m／只見町）

奥会津に座す登山者垂涎の名山。歩行時間8時間30分。黒谷から林道を進み、イワナの里の奥に登山口がある。長大な登山路は上級者向けで、奥深い朝日岳の全容は叶ノ高手でようやく見ることができる。艱難辛苦の末の山頂からは、丸山岳など奥会津の名だたる山々が、その偉容を誇示して輝いている。下山後の楽しみである温泉は深沢温泉が近い。

（奥会津郷土写真家）

田子倉トンネルを抜けて走る列車と鬼ヶ面山の岩壁

叶津川橋梁を渡る只見線の列車と浅草岳

連載■ご当地アルプス登山案内31

大阪アルプス

関西支部　野村　康

「大阪アルプス」は大阪市内の五低山を言い、湾岸の工場地帯から上町台地へ、歴史や昭和の街並みから都会の散策を楽しめる。

天保山（標高4・5m、二等三角点）は、天保年間に諸国廻船の水運確保のため、住友家・鴻池家・三井家から借家人までと幅広い寄付で安治川を浚渫した土砂で造られ、航行の目印や行楽地になった。地盤沈下で三角点が抹消されたが、地元の復活運動で山として認定され、三角点のある山で日本一低く、人気の山となっている。

三角点のある山では日本一の低山、天保山の二等三角点

帝塚山（19・9m、三等三角点）は上町台地西縁にある小玉手塚（国史跡の前方後円墳）で、かつて近くに大玉手塚もあったと言われている。

聖天山（14m）は上町台地の開析谷の尾根にあり、隣に聖天山古墳がある。正圓寺に大聖歓喜天が祀られたのでこの名が付いた。

茶臼山（26m）は大坂冬の陣で徳川家康、夏の陣で真田幸村が布陣した古戦場跡となっている。

大阪城が見えた御勝山（14m）は上町台地東縁にあり、徳川秀忠が夏の陣で陣を設けて勝ったのでこの名が付いた。前方後円墳の前方部端が勝山南公園になっている。

このほか大阪市内には国土地理院地図に昭和山がある。地下鉄建設時の土砂で造成され、昭和45（1970）年命名なので、五低山に比べ新しい。

【コースガイド】

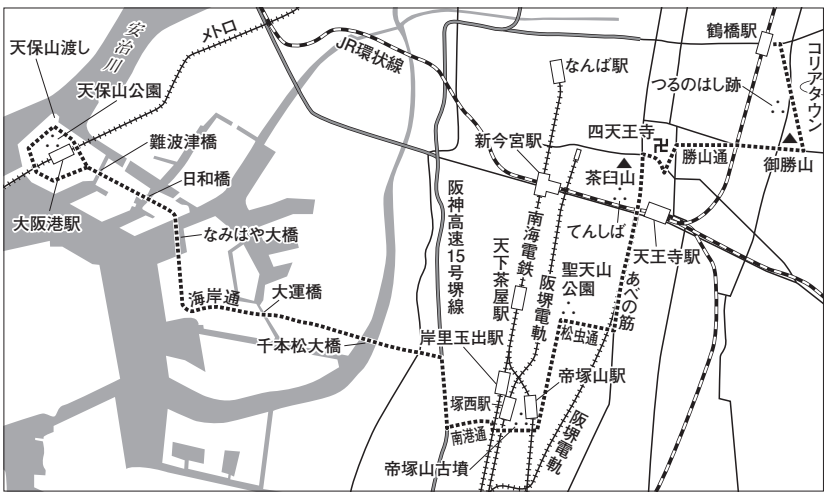
大阪メトロ大阪港駅①番出口から北へ、花の海遊ロードを大観覧車を目指して進み、突き当たりの右手の天保山公園内に三角点と天保山跡の碑がある。

海岸通を行き、天保山に幕府が砲台を設置するため移転された港住吉神社、難波津橋、日和橋、S字カーブ状のなみはや大橋を渡ってから南下し、突き当たりから西へと工場地帯に入り、大運橋、千本松大橋（縦走路で最も高い30m強のめがね橋）と行き、阪神高速15号堺線に沿って南下し、南港通で西に進み、阪堺電軌（ちん電）塚西駅から軌道に沿って少し南下し、小高い所を目指して進めば帝塚山古墳がある。

南海帝塚山駅からちん電とほぼ平行に北上すると松虫通に面して聖天山公園があり、上がった所の正圓寺の奥之院にピークがある。

松虫通を東に進むと、数々の伝説が残る松虫塚を経て、あべの筋を北上する。かつて熊野街道だったのでその道標がある。

天王寺公園の芝生広場（てんしば）を通り、動物園てんしばゲートで右に折れ、住友家が寄贈した本邸庭園の慶沢園、本邸跡に建設された大阪市立美術館前を行くと大阪のシンボル・通天閣（屋外展望台の高さ95m）が見える。茶臼山は河底池の和気橋を渡った所にある。茶臼山エントランス側に下り、四天王寺（聖徳太子建立七大寺の一



家康や幸村らが布陣した茶臼山の全景と河底池、和気橋

つで、毎月21日に大師会、22日に太子会が行なわれる）に向かう。勝山通を西に進むと御勝山がある。

御勝山から鶴橋駅までは道なりに進むと、つるのはし跡（鶴が飛来する『日本書紀』記載の橋）、右手の御幸通商店街（コリアタウン）を過ぎ、鶴橋本通商店街を通り抜けるとJRと近鉄の鶴橋駅に着く。

天保山は天保山山岳会か天保山商店会加盟店、茶臼山は天王寺区民センターで登頂証明書を発行してもらえる。

【コースタイム】 大阪港駅（5分）天保山公園（1時間20分）千本松大橋（1時間15分）帝塚山古墳（45分）聖天山公園（50分）茶臼山（45分）御勝山古墳（30分）鶴橋駅

昼食はてんしばのカフェ、夕食は鶴橋の韓国料理や焼肉がお勧め。

【入山口へのアクセス】 JR大阪環状線の弁天町で大阪メトロ中央線に乗り換え、大阪港で下車。海抜0mから登る場合は、JR西九条でゆめ咲線に乗り換え、桜島で下車。桜島桟橋から天保山渡し（6時から無料）に乗船。累積標高を稼ぎたい方は、西九条下車すぐの安治川隧道（初の沈埋工法で建設。6時から無料）で安治川を地下14mのトンネルでくぐり、大阪メトロ九条から乗車。

【地図／参考HP・文献】 国土地理院の2万5000分の1地形図「大阪西南部」「大阪東南部」。大阪市HP「大阪市史跡連絡遊歩道の上町台地南／北コース」、天王寺区役所HP「上町台地周遊map」、阿倍野区役所HP「あべの発見」「あべの歴史マップ」には紹介した以外の史跡や見所が紹介されている。天保山については、港区役所HP「みなと物語 天保山のおはなし」（全7話）。JTBパブリッシング『歩いて楽しむ大阪』、山川出版社『大阪府の歴史散歩』上

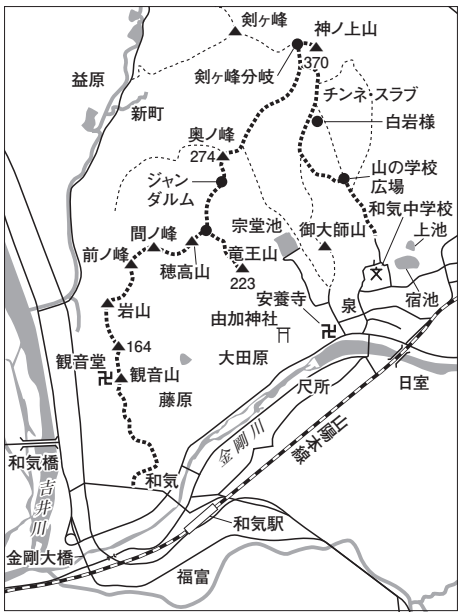
連載■ご当地アルプス登山案内32

和気アルプス

関西支部　中村三佳

「和気（わき）アルプス」は、岡山県南東部に位置し、JR山陽本線・和気駅のすぐ北にある和気富士（172m、四等三角点）からその奥にそびえる神ノ上山（こうのうえ）（370m、二等三角点）に至る東西3km、南北4kmの山域で、低山ながら流紋岩の露岩が顕著であり、その山容は険しい。

和気アルプスは、地元の藤本正道氏によって2000年ごろから山林地権者の承諾、登山道の整備、標識の作製・設置、ホームページの作成などが成され、県内はもとより全国から登山者が訪れる人気の山域となった。また、神ノ上山の南面中腹には「鷲ノ巣岩場」と呼ばれる所があり、岩登りのゲレンデとしても有名である。ただし、松茸山であるため、毎年9月1日～11月30日の間は入山禁止となるので注意したい。



【コースガイド】

和気アルプスの縦走ルートは、いくつものピークを越える。一般には赤い鳥居登山口から和気富士を経て神ノ上山へ登り、和気中学校へ下るコースが紹介されているが、ここでは逆コース、和気中学校から登り、神ノ上山、竜王山（223m・四等三角点）、観音山、和気富士を経て赤い鳥居登山口に下るルートを紹介する。途中、急坂や岩場、樹海などが

あり、変化に富んだ縦走が楽しめる。

　ＪＲ和気駅から金剛川に沿って東へ、和気町役場の前を通り安養寺橋を渡る。信号を横断した和気中学校の裏が登山口だ。猪除けフェンスを開閉し、「山の学校」と言われる広場を通り抜けて尾根に取り付くと、すぐに急登となる。しばらく樹林帯を登り、突然、視界が開けるとロッククライングの練習場となっている「白岩様」と呼ばれる岩場や「チンネ・スラブ」が現われる。これらの展望を楽しみながら歩く。

　三差路を左へ、剣ヶ峰分岐を右に進むと神ノ上山山頂だ。和気アルプス最高点にして二等三角点で、山頂からは北に那岐山が望まれ、東には備前市から兵庫県の山々、眼前には和気の街が見渡せる。切り開かれた広場があり、休憩を取るには良い。

多くのアルピニストを育てた鷲ノ巣の岩場

　剣ヶ峰分岐から南西に延びる尾根を下る。奥ノ峰までしばらく樹林帯となるが、ザレ道で滑りやすく注意が必要だ。奥ノ峰からコルまで一気に下る。途中、少し大きいかなと思われる岩塊に名前が付いていて、それが「ジャンダルム」だ。

　和気アルプスのルートには、ザイテングラート・ルート、剣ヶ峰コース、表銀座コースなどがあり、

白岩の展望所より和気の街並みを望む

前剣や一服平、カニノタテバイといったアルプスを模したユニークな名前が多く付けられ、こうしたところも人気を呼ぶ所以であろう。また、道標が猪型プレートになっているのも面白い。

　竜王山分岐となる涸沢峰展望岩では、これから歩く縦走ルートと竜王山経由のエスケープ・ルート、振り返ればこれまでたどって来た登山道、三角形状の神ノ上山がよく見える。せっかくなので竜王山へ足を延ばす。竜王山山頂は樹木が茂っていて展望はないが、祠があり、竜王山らしく中には小さな竜が祀られている。

　涸沢峰展望岩分岐へ戻り、南西に延びる尾根を進むと標高２００ｍの穂高山だ。竜王山西斜面のバットレスが眺められる。ここからは間ノ峰、前ノ峰、岩山といくつものアップダウンを繰り返しながら進む。低い樹木が続き、展望の良い岩尾根だ。やがて標高１４０ｍの観音山となる。麓には和気観音があり、西側の斜面には毎年８月16日に「和」の文字のかがり火を焚く火床がある。

　南へ下って行くと烏帽子岩を経て権現分岐を左へ、間もなく和気富士山頂となる。和気富士は戦国末期に築かれた北曽根城跡で、明石景行・宣行兄弟の居城であったが、現在ではツツジの名所として親しまれている。厳しい急坂の丸太階段を下ると、赤い鳥居が下山口となる。ＮＴＴの敷地角の「和気富士健康づくりの道」標識を左折し、県道を東へ。富士見橋を渡って南へ向かうとＪＲ和気駅だ。

【コースタイム】　ＪＲ和気駅（25分）和気中学校裏手登山口（１時間）展望所（25分）神ノ上山（35分）ジャンダルム（30分）竜王山（15分）穂高山（65分）和気富士（10分）赤い鳥居下山口（25分）ＪＲ和気駅

【山行アドバイス】道標が至る所にあるが、分岐が多いので迷わないようにしよう。登山道はしっかりしているので危険はないが、ザレ道が多く滑りやすいので注意が必要だ。日帰りはもちろん、ルートを選ぶことによってしっかり歩くこともでき、1年を通じて（入山禁止の期間を除く）楽しめる山である。

【参考文献】　和気アルプスほか登山詳細図（作成・解説：守屋益男）、『岡山の山百選』（吉備人出版）、『岡山県の山』（山と溪谷社）

REPORT

第12回登山教室指導者養成講習会を小諸市と黒斑山で開催

主催：（公社）日本山岳会　支部事業委員会／後援：（公財）安藤スポーツ・食文化振興財団

3月18日(土)

会場：安藤百福記念　自然体験活動指導者養成センター　カンファレンス・ホール

◆講義1「登山と身体トラブル―登山教室事例を含めて―」野口いづみ講師（日本山岳会医療委員会委員・東京多摩支部長）

◆講義2「頂上は折り返し点、ゴールは我が家なり」松田宏也講師（日本山岳会理事・千葉支部長）

◆講義3「19日の実技講習について」宮津洸太郎講師（YOUTH　CLUB委員、明治大学山岳部コーチ）、杉原一樹講師（YOUTH　CLUB委員、東海大学山岳部監督）

3月19日(日)

場所：車坂峠～黒斑山

◆実技実習「チーム登山と初級の雪山技術」宮津洸太郎講師（前出）、杉原一樹講師（前出）

長野県小諸市において支部事業委員会主催の登山教室指導者養成講習会を開催した。本講習会は支部の活性化と次期リーダーの育成を推進するための施策として計画され、今回で12回目の開催となる。今回も安藤スポーツ・食文化振興財団の支援を受け、群馬、埼玉、千葉、東京多摩、神奈川、山梨の各支部から女性10名、男性6名、計16名が参加した。

日本山岳会の活性化・会員増強の方策として、支部山行が準会員や山歴の浅い会員の定着事業として注目されているが、山行の増加に伴い遭難事故の危険も増している。また、地域の非会員を対象とした登山教室は、新入会員の獲得に寄与することから実施する支部も年々増えている。非会員を山行で引率するには受講者の安全管理はより重要で、そのために必要な知識と技術を持った指導者の育成が求められている。そのような背景から、安全管理に必要な知識を持つ指導者の養成を目的として、この登山教室指導者養成講習会の実施を継続しているのである。

（支部事業委員会　中村哲也）

リーダーとして意識改革を

杉原一樹

去る3月18日から19日にかけて、長野県小諸市の黒斑山において「第12回登山教室指導者養成講習会」が開催された。

初日は南岸低気圧通過のため雪の降りしきる中、小諸市の施設をお借りして座学講習を行なった。私からは「リーダーの視点で入山前の情報収集を考える」という内容で講義させていただいた。ルート概要と天候の調査、登山当日に予測されるハザードとリスクの評価について解説し、実際に黒斑山のコースに当てはめて考えてみた。

翌日は、YOUTH　CLUBの宮津洸太郎・学生部部長と私が講師を務め、車坂峠から黒斑山を往復するコースで講習を行なった。開催前から雪不足が心配されていたが、前日までの降雪が幸いし、当日は微風快晴となり、積雪期の講習には最適なコンディションとなった。

まず、スタート前に前日の講義で予測したルート・コンディションと実際の山の様子を比べてみる。フィールドの情報を収集しながらメンタル・マップを更新し、メンバー全員に最新の情報を共有させるのはリーダーの重要な役目だ。続いて、レイヤリングと装備のレクチャー。リーダーたる者、メンバーの手本となるようなレイヤリング、装備装着を心掛けなければならない。今回はアバランチ・トランシーバー（雪崩ビーコン）の使用経験がない参加者もいたので、簡単な操作説明と動作確認の仕方をデモンストレーションしてから出発した。

行動中は随時、グループ・マネ

松田宏也講師のリアルな体験談に耳を傾ける参加者たち

ージメントについての講習を行ないながら進んでいく。全員がリーダー役となって先頭を交代し、危険個所の伝達やペース配分などを考えながら歩いてもらった。天候に恵まれ、行動中は終始、絶景を楽しみながら歩くことができ、楽しい山歩きを満喫できたことだろう。雪山経験の少ない参加者もいたため、やや疲労ぎみの者も出たが、概ねコースタイムどおりに無事下山となった。

「連れて行ってもらう」立場から「連れていく」立場になるためには、意識を変えていかなくてはならない。入山前から考えることは多いし、現場では状況判断の連続である。今回の講習で、リーダーとしての新しい心構えを学んでいただけたと思う。今回得た知識や経験を今後の支部山行などに活かしてもらいたい。

積雪期の講習としては最適なコンディションの下、稜線へ

指導者講習会を受講して

東京多摩支部　齊藤理恵子

初日の天候は、春めいた気候を裏切るような南岸低気圧の降雪予想。安藤百福センターの集合時間には、みぞれが降っていた。隈研吾氏設計のホテルのような会場は、眺望も良いはずなのに眼下の街並みも見えない冬眺望。明日の実技講習の天候が気になる。

開会式ではこの講習会の目的を告げる主催者の挨拶があり、気を引き締めてスタート。

赤ゾレの頭で浅間山をバックに記念写真に収まる参加者一同

1つ目の講義は「登山と身体トラブル」（野口講師）。山岳遭難の原因になり得る病気・外傷・痛みへの対処や、冬山におけるトラブルの状態や症状を写真や実例を用い分かりやすく紹介してくれた。そして、予防することの大切さ・瞬時に対処する方法と携帯救急品の必要性を学ぶことができ、常に忘れることなく持ち合わせなければ、と強く感じた。

2つ目の講義は「頂上は折り返し点、ゴールは我が家なり」（松田講師）。想像を絶する実話を映像で伺いながらも、講師ご本人の「山は人間にへつらってくれない。緻密な計画と確実な一歩なくして安全なし。山を楽しむことを皆に伝えて」という熱い語りに心打たれた。

講義の後、明日の実技講習に向け本部ＹＯＵＴＨ　ＣＬＵＢの講師から、山行前に集めるべき情報とメンバーとの共有方法を指導していただく。どんな実技になるのか楽しみだ。

その後夕食をいただき、講師の方々や参加した他支部の皆さんと楽しい交流の時を過ごした。

2日目、車坂峠へバスで向かう。小諸が眼下になると、北アルプスや八ヶ岳が望める絶景で、車坂峠では新雪の雪山が待っていた。

山行開始時、リーダーが発すべきメンバーへの共有内容、予測とは違う現況の把握方法などを学ぶ。ビーコンによるアバランチ・チェックをしてスタート。粉雪を踏み締める足元が心地良い。ルートを外れてのラッセル訓練、急傾斜直前でのアイゼン装着、先頭を交替しながら、「声掛けの仕方、休憩での注意点、状況把握」などの指導を受ける。一つ一つが実践に結び付く。人気の黒斑山は山頂でも人が多く、長い隊列のすれ違いにやや時間を要したが、良好な天候の中、無事に下山した。

この講習会を受講して、グリーン・シーズンとは違う雪山山行における判断やリーダーシップの取り方などを学ぶことができた。支部に戻り、登山教室や定例山行などに活かせるよう努力したい。そして今後、この講習会に多くの会員の方々が参加されることを期待したい。

講師の方々、スタッフや参加者の皆様、お世話になりました。

HISTORY

日本登山史の空白を埋める円空の存在
穂高岳現存最古の文献は円空仏の背銘

東海支部　清水克宏

播隆の念持仏も円空仏

美濃国に生まれた江戸前期の山岳修行僧・円空（寛永３〈１６３３〉年～元禄８〈１６９５〉年）は、荒々しい彫り跡の「円空仏」で知られます。生涯に12万体もの像を造顕したとも言われ、現在、北海道から西日本にかけて５３００体余りが確認されています。

槍ヶ岳開山で知られる江戸後期の浄土宗の僧・播隆（天明６〈１７８６〉年～天保11〈１８４０〉年）は、円空より１５０年ほど後の生まれになりますが、山岳修行の過程で先達として円空の存在を意識し、同じ岩屋で修行し、播隆開基の岐阜県揖斐川町の一心寺には、行脚の笈（おい）に納めていたという円空仏が伝わります。また、御嶽山を庶民に開いた行者・覚明（享保３〈１７１８〉年～天明６〈１７８６〉年）の念持仏も円空仏です。

江戸時代において、円空は広く知られた存在で、現在の百科事典に当たる『和漢三才図絵』（寺島良安編）や、ベストセラーの伝記集『近世畸人伝』（伴蒿蹊著）、将軍吉宗の命令で飛騨国の代官・長谷川忠崇がまとめた歴史書『飛州志』にも登場します。しかし、彼の信仰が当時、一般的だった神仏習合に根差していたため、明治初年の神仏分離令に端を発する廃仏毀釈や、同５（１８７２）年の修験禁止令を経て、その存在はいったん歴史の奥底に埋もれてしまいます。

そんな円空の存在が、昭和30年代の「円空仏ブーム」によって一躍広く知られるようになります。ただし、ブームが巻き起こる過程に民芸運動で知られる柳宗悦が関わっていたこともあり、民芸品のように位置付けられていた側面があります（写真右下）。さらに、庶民に寄り添い造像した円空を、漂泊無学の乞食坊主のようにとらえる研究者もあり、そんなイメージを踏まえたテレビドラマが放映されたこともあって、かなりいびつな円空像が定着してしまいました。

昭和34（1959）年『民藝』９月号「円空上人の彫刻　特集号」

その後、各地で円空仏が次々発見され、背銘（背中の銘文）の研究が進み、さらに１６００首を超える和歌が発見、公刊されたこともあり、円空研究は飛躍的に進みました。そして平成18（２００６）年には、哲学者・梅原猛が、著書『歓喜する円空』で、「円空は私にとってもはや一人の芸術家に過ぎない存在ではない。むしろ彼は私に神仏習合思想の深い秘密を教える哲学者なのである。」と、新たな円空像を提示しています。

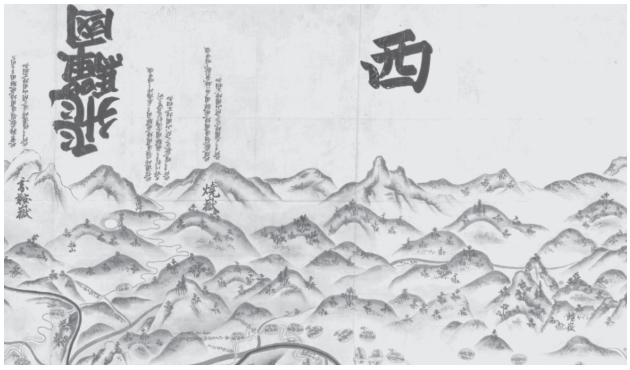
しかし、円空の本質は、やはり寛文３（１６６３）年に噴火して間もない北海道・有珠山に登り「うすおくのいん小嶋　江州伊吹山平等岩僧内　寛文六年丙午七月廿八日　始山登　円空」と有珠善光寺蔵の観音像の背銘に記しているように、全国を行脚した山岳修行僧なのですから、そのフィジカルな活動を無視することはできません。ところが、これまでの研究者は書斎派の方が多かったのか、山岳修行などの冒険的行動には、ほとんど光が当ててきませんでした。

背銘に「保多迦嶽」の文字

私は飛騨山脈や白山山地、伊吹山地など４５０山余りある岐阜県の山の過半数を５年間かけて踏査し、『森の国水の国　岐阜百秀山』（ナカニシヤ出版）を一昨年、刊行しました。その踏査においては、まるで先回りをするかのように、実に多くの山々で円空の足跡に出会いました。特に、のちに「北アルプス」と呼ばれる飛騨・信濃国境の山々の地理的把握の進展について、多くの絵図（現在の地図）などを確認していく過程で、円空がこの山域の先鋭的な開拓者であることを知るに至りました。

円空が活躍した戦国時代の余波が残る江戸前期は、市民文化が花開き、富士講や大山講が隆盛を極めた後期と比較して、人の移動は

大幅に制約され、地理的にも未解明でした。先行する日本登山史では、この前後の出来事として、天正12（1584）年の佐々成政のザラ峠越えなど戦国武将の峠越えや、加賀藩の奥山廻りが採り上げられます。ただし、戦国武将はあくまで峠越えをしたに過ぎません。また、奥山廻りについては、越中、信濃、飛騨の3国境に当たる「上奥山」の踏査が、幕府が正保元（1644）年、全国の諸大名に作成・提出を求めた正保国絵図作成の段階ではまだなされておらず、元禄国絵図作成段階の元禄10（1697）年に、ようやく3国境の境目見分が行なわれています。そして、北アルプスのハイライトとも言える飛騨・信濃両国境の山々については、江戸後期の播隆の槍ヶ岳開山に至るまで、登山史において空白になっていました。



「信濃国元禄国絵図」（上田藩伝来　上田市博物館蔵）

　江戸時代の山岳を含めた地理の把握状況の進展を見るには、前述の幕府が諸藩に作成・提出を求めた国絵図が基本となります。飛騨、信濃両国については、正保、元禄、天保の3回作成されましたが、天保国絵図のみが現存しています。元禄5（1692）年に天領になった飛騨国については、それ以外に同8年、幕府が大垣藩主・戸田采女正氏定に命じて検地を行なわせた折に作成された絵図が現存します。そこには硫黄（硫黄岳＝焼岳の飛騨側の呼称）、鑓ヶ嶽、笠ヶ嶽は記されるものの穂高岳は記載されておらず、ようやく幕末の絵図に「穂高嶽」が登場します。一方、信濃国については、上田藩に伝来した正保、元禄（写真上）、天保の国絵図の正確な写しが残されています（上田市博物館蔵）。そこには、乗鞍岳、焼岳、蝶ヶ岳は記されるものの、槍ヶ岳、穂高岳などは、いずれにも記されていません。そのうち穂高岳については従来、元禄9（1696）年に幕府が作成を命じた元禄国絵図の下図と思われる『飾岡本筑摩郡安曇郡図』（松本市博物館蔵）に、「保高嶽」とあるものが最古の文献とされていました（2017年　松本市・松本市教育委員会『上高地保存管理計画改訂版』）。

金木戸集落に残る十一面観音像の背銘（現・桂峯寺蔵、前田邦臣氏撮影）

　しかし、円空が飛騨側の双六川最奥の金木戸集落に残した十一面観音像の背銘には、「頂上六仏元禄三年　乗鞍嶽　保多迦嶽　□御嶽（於御嶽と宛てて笠ヶ岳とされる）　伊応嶽（焼岳）　錫杖嶽　四五六嶽（双六岳）」と記されており、穂高岳の文献上の初出は、この元禄3（1690）年の円空の背銘ということになります（写真左）。しかも、円空は有珠山の例のように、登った山の名を背銘に記していますし、乗鞍岳、笠ヶ岳には登ったとの文献がありますから、これらの山全てに登った可能性が十分にあると考えられます。

　現在、私は5ヶ年計画で、「『円空の冒険』追跡」と銘打ち、円空の足取りに沿って実地踏査を進めており、それぞれの山の登攀ルートの検証も含め、なんとかその全容を明らかにしていきたいと思っています。

N
西　東
北　南
S

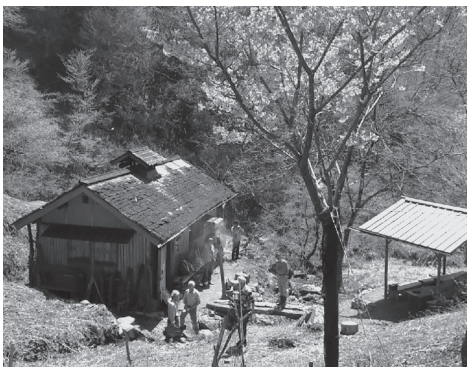
会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

北山荘―セルフビルド・セルフメンテナンスによる山小屋の80年　【後編】

京都一中・鴨沂高校・洛北高校山岳部OBの会（北山の会）
会長・黒田俊郎

山小屋のセルフメンテナンス

竣工後3年で終戦を迎え、1945年には世相の乱れからか、窓ガラスが盗難に遭い、建具などが燃料にされてしまった。翌年から各所の修理が行なわれたが、学制改革で新制高校となった鴨沂（おうき）高校・洛北高校の山岳部員によるものであった。高温多湿の山中では木造家屋の劣化は早い。日常的な補修とともに、時に応じて屋根の葺き替えなど大規模な補修工事も必要であった。以下に記録が明確な、大規模修理の歴史を振り返る。


北山荘では例年観桜会を開く。右は東屋

竣工後24年を経た66年、柱の腐れによる小屋全体の傾きが発生し、屋根材杉皮の崩落などもあり、現役生の修理では対応不可能となった。両高校山岳部のOB・現役からなる改築実行委員会が結成され、寄付金の募集と労力確保に当たった。棟梁は創建時の同工務店に依頼し、春休みに歩荷・手伝いを行ない、予想外の降雨に悩まされたが、棟梁の採算度外視の協力を得ることができ、68年修理完成となった。筆者は実行委員の1人として、所用総額27万円余の募金集めに奔走した記憶がある。

16年後の84年、積雪に耐え兼ねるほどの傷みが報告され、7・8月に現役・OBによる大掛かりな修理が行なわれた。このときの棟梁はこれまでと異なり、OBで工務店を営む専門家が無報酬で務めた。修理内容は基礎土台の一部持ち上げ・屋根の葺き替えなどで、資材3tの歩荷、延べ人数は110名であった。

その8年後の92年、以後30年間現在まで継続することになるOB集団による修理が始まった。96年（平成の大修理）に屋根の葺き替え、2009年までには数年置きに妻・平部全面改修、一部土壁に替え、屋根二重構造への大修理などが、12年には薪小屋新設、16年には東屋新設なども行なわれた。18年には記録的大型台風21号が猛威をふるい、北山は杉の倒木に埋め尽くされ、山道は寸断されたが北山荘は幸いにも屋根の一部破損だけで済み、修理は即刻行なわれた。これらの補修ではいくつかの新しい工夫を用いたが、和小屋の小屋組はほぼ竣工時のままである。

以上の補修工事は設計から施工まですべてが現役・OB自身によるもので、資材費以外に対価を払うことはなく、一連の作業は「セルフメンテナンス」と言ってよい。さらに、特徴的なのは、従事者はOB会に要請されて組織的に参加するのではなく、いくつかのグループがそれぞれの形で貢献したことであった。OB会の役員会はメールマガジンなどで維持管理に関する意見の集約や、行事予定・最新情報の共有を図っているが、各グループの行動は極めて自主的で、またOB会非会員（山岳部出身者

寄附金および助成金などの受入報告（3月まで）

寄附者など	受入金額など（単位千円）	寄附の目的、その他
後藤　　允　会員	10	岐阜支部が行う新入会員の入会金補助のための寄附金
田中　　進　会員	10	ヤマトシプロジェクト寄附金
佐野　忠則　会員	15	ヤマトシプロジェクト寄附金
服田　康夫　会員	10	ヤマトシプロジェクト寄附金
高橋　玲司　会員	10	ヤマトシプロジェクト寄附金
今津英一朗　会員	10	ヤマトシプロジェクト寄附金
尾上　　昇　会員	20	ヤマトシプロジェクト寄附金
京王電鉄株式会社	1,000	高尾の森づくりの会活動指定寄附金

でない者・他校出身者も含む）が参加しているのも特徴的である。

20年、北山荘は京都市の「京都を彩る建物や庭園」に、ほかの歴史的価値のある施設に並んで選定された。さらに、京都府立大学・奥矢恵准教授らが北山荘を調査し、『愛好家集団による小屋の建設・維持管理の手法と体制：京都北山 北山荘を事例として』（日本建築学会技術報告集　第29巻　第71号、498～502、23年2月）を発表して北山荘の創建と維持管理に科学的分析を加えた。これらは我々自身が北山荘の歴史を振り返るときの指針にもなった。特記して擱筆したい。

俳句　第10回小島烏水祭に参加して

西山秀夫

やはらかな冬の日を吸ふ顕彰碑
小春日や数多のつどふ烏水祭
（令和4年11月19～20日　高松市の峰山公園にて）
冬日和烏水の孫の詩吟かな
（烏水の孫の小島誠氏が正岡子規の俳句を詩吟でお披露目）
瀬戸の海見るまで歩く冬木立
屋島より眺めて青き冬の海
（屋島北端の遊鶴亭から瀬戸内海を俯瞰）
阿讃なる竜王山や枯木立
（香川県の最高峰に登る　※阿讃＝阿波と讃岐の国境）
神留守の諭鶴羽山に登りけり
（淡路島の最高峰に登る）

図書紹介

田中陽希著　田中陽希日記　日本3百名山ひと筆書き

2022年8月
平凡社
A5判　280㌻
2000円＋税

田中陽希著　それでも僕は歩き続ける

2021年3月
平凡社
四六判　216㌻
1400円＋税

1冊目の『田中陽希日記　日本3百名山ひと筆書き』は、ひと言で言えば、山とこの挑戦に対する「こだわり」が伝わってくる一冊だ。「日本百名山」、「日本二百名山」挑戦のときにはなかった、新型コロナウイルス感染拡大による旅の中断という障壁、その間に山形県酒田市の空き家での旅の再開に向けたトレーニングの日々、旅の途中で運転免許証の有効期間が切れてしまい、更新手続きのために、そして積雪がないと登れない東北の山に登るために、一時休止するために一時帰宅したことなどが記録されており、この旅と直接関係のない一時帰宅や休止中の日常生活の中の移動であっても、この旅の期間中は、電車、バス、エレベーターを使用しないという徹底ぶりが伝わってくる。

連載でお世話になっている共同通信社を訪問する折も、自宅からの往復はもとより、オフィスが入っているビルの25階まで非常階段を使用して往復したシーンは大変印象的である。そして、最後のページには、この旅を終え3年7ヶ月振りに列車に乗車したときの写真が掲載されている。「日本百名山」や「日本二百名山」を完全制覇する登山者は多くいるだろう。効率的に短期間でクリアしようと考えるならば、遠方の山へは飛行機で最寄りの空港まで飛び、レンタ

カーを借りて、車で入れる所まで入って往復し、次の山を目指すとか、縦走可能な山同士は、1回の山行でひとまとめにして歩けば良いだろうし、実際のところ限られた時間しかない多くの登山者は、そうしているだろう。

しかし、文明の利器を一切使用しないで、自分の足だけで歩き通そうという田中陽希氏の挑戦では、このようなスピード登山では見失ってしまう発見が数多くあることに気付かされる。登山道のみならず、一般の舗装路も多く歩いている中で、空き缶やペットボトル、中には尿入りのペットボトルがポイ捨てされている現実に心を痛めているシーンは、スピード登山では気付かない視点であるし、コース設定の面でも三百名山のピークハンティングだけが目的ならば通る、必要のない房総半島一周や山口県内の低山歩き、クライマックスは、ゴムボートで天塩川を下ってゴールするという「旅を最高の形で終わらせようというこだわり」が伝わってくる一冊である。もちろん、この旅は、田中陽希氏だからできたもので、安易に真似できるものではない。危険な面も多くある。しかし、自然の魅力を肌で感じながら、ある意味での「遠回り」の旅をするという新しい視点が得られることは多くあるだろう。

続く、『それでも僕は歩き続ける』は、前述の『日本3百名山』の旅の挑戦中、新型コロナウイルス感染拡大のため、山形県酒田市で空き家暮らしをしていた2020年初夏に、リモート・インタビューを通して田中陽希氏が語った言葉をまとめたものだ。こちらには、幼少期のこと、「アドベンチャーレーサー」という道を選び、リバーガイドとして一人前になり、「グレートトラバース」という旅を始めるに至った経緯が記されている。旅の実際の内容を紹介した前著とは異なり、田中陽希氏という人物像を紹介した内容になっている。本著によると、田中陽希氏は埼玉県出身で、旅好きの両親に育てられ、自家用車で全国を旅しながら、自分たちが移住する場所を探し、北海道富良野市を訪れたときに気に入った場所を見つけ、移住を決めたという。小学生のころから「スキー少年団」に入り、大学まで続けており、このお陰で基礎体力が付いたと振り返っている。

大学卒業後、この先どういう人生を送ったらいいのか明確には見えておらず、なんとなく教師の道を選ぼうとして、日本体育大学に編入した年にアドベンチャーレースに出会い「やりたいことができた」と言い、父親がスポンサーになる代わりに、中途半端な気持ちではダメだと言われたこと、そして、テレビでもたびたび登場している群馬県みなかみ町にあるカッパクラブに就職したこと、佐賀県在住の祖父母を訪ねたときに九州の山を歩いたことがきっかけで、リバーガイドとしては一人前になっていたころ、社長に「日本百名山ひと筆書きに挑戦してみたいので、1年間お休みしたい」と告げ、この挑戦がスタートしたという一連の経緯が記されている。また、前著では触れられていない装備や食糧の工夫や食べた「食」や「食文化」にまつわる思い出についても触れられていて、興味深い。

また、彼が「有名人」になってから出てきた弊害についても触れられている。そもそもこの旅は自分を変えたくて始めた自分発信の旅であったことに何度か触れ、それがNHKの密着取材によりファンが急増し、山頂での待ち伏せや差し入れでかえって彼自身のみなら

第25回「秩父宮記念山岳賞」の推薦募集について

秩父宮記念山岳賞審査委員会

第25回「秩父宮記念山岳賞」の推薦（他薦に限る）を次のとおり受け付けます。事務局まで資料をご請求ください。当会のホームページを活用される方は、推薦募集の詳細を掲載しておりますので、推薦要項・所定様式（ダウンロード可能）などをご参照ください。多数のご推薦をお待ちしております。

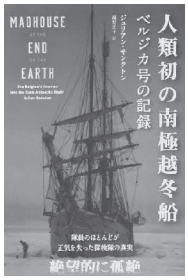
なお、本賞は公益目的事業でありますから、受賞対象者を本会会員またはグループに限定しておりません。

◎対象分野　登山活動／山岳に関する文化的活動、学術的業績
◎提出先　日本山岳会内　秩父宮記念山岳賞事務局
◎締切り　令和5年8月31日（木）

ず、追いかけてくるファンのリズムが崩れてしまったことを憂えている場面もある。メディアの力の大きさを知るとともに、彼の旅の動機はあくまでも「挑戦」であって、「見せる」ためではなかったことがよく伝わってくる一冊である。

（床田真理）

ジュリアン・サンクトン著／越智正子訳
人類初の南極越冬船ベルジカ号の記録



2023年1月
パンローリング
四六判　443ページ
2000円＋税

アドリアン・ド・ジェルラッシュ・ド・ゴメリーを隊長とするベルギーの南極探検隊が、1897年から99年にかけて行なった探検の様子を紹介するノンフィクションである。

原題が"MADHOUSE at the END of the EARTH"日本語版の副題に「隊員のほとんどが正気を失った探検隊の真実」とあるように、この探検隊の南極での越冬は悲惨なものであった。2度目の越冬をしていたら、医者としてこの探検隊に参加していたフレデリック・クックが予測したように何人も死者が出たことであろう。クックは米国史上、最も恥知らずな詐欺師として知られているが、彼のお陰でこの探検隊は全滅を免れたというのだ。

著者のジュリアン・サンクトンは、実際に南極にも出掛けて取材している。だからこそ、この本に描かれる南極の氷上の様子などがリアルなのだろう。実は、ベルギーの探検隊と諍っていたが、途中で不良船員を解雇したため、南極へ向かうときにはベルギー人以外の数の方が多くなっている。ノルウェー人のアムンセンも、この探検隊に一等航海士として参加していたのだ。期せずしてベルギー探検隊というよりも国際探検隊の様相になってしまう。その中での人間関係の調整は大変だったようだ。

そして、船が氷に閉ざされ越冬せざるを得なくなったとき、隊員たちは体調も精神も正常ではなくなっていくのである。壊血病と思われる症状も隊員に広まっていたのだが、元気だったのはドクターのクックだけだった。彼はイヌイットが生肉を食べることで健康を保っていることを知っていたのだ。最初にペンギンの生肉を受け入れたのはアムンセンだけだった。次に船長も生肉を食べ、初めて日に日に回復する姿を見せたため、ほかの隊員たちもペンギンの生肉を食べるようになっていく。危機状態にあるときに、絶望して無力感だけがいっぱいになっていくことは、壊血病などの病気からくるものだけでなく、精神や体を蝕んでいくようだ。クックが提案した氷からの脱出案に、力を合わせて取り組むだけで精神的にはプラスになったようだ。この探検隊は、それに幸運が合わさって脱出できたというところであろう。

実は、この本のエピローグは、ネズミ講まがいの石油詐欺で14年の刑を受けて収監されているクックを、アムンセンが刑務所に訪ねる場面から始まっており、本文の終わりもクックとアムンセンの話で終わる。この本では、クックとアムンセンが陰の主人公であるように私は思う。この探検から学ぶことは「けっして運命だからと諦めてはいけないということだ」と著者は書いているが、その精神を体現していたのがクックではなかったか、と私は思う。

（北島洋一）

会務報告

令和4年度第10回（3月度）理事会議事録

日時　令和5年3月15日㈬　19時～21時30分
場所　Ｚｏｏｍ（オンライン）ルーム
【出席者】古野会長、坂井・山本・橋本各副会長、柏・萩原・南久松各常務理事、松原・松田・清水・飯田・平川・

川瀬・長島各理事、佐野・黒川監事
【欠席者】久保田理事
【オブザーバー】なし

【審議事項】

1・令和5年度事業計画について審議し、承認した。（柏）（賛成14反対0）

2・令和5年度予算について審議し、承認した。（南久松）（賛成14反対0）

3・YOUTH　CLUBの組織改編について審議した。青年部、ワンゲル部の合併について承認した。（松原）（賛成14反対0）

4・ジョージア国のコーカサス山麓にある世界遺産の街メスティアに、桜の植樹を行なう「コーカサスの桜プロジェクト」を120周年記念事業として実施することを承認した。（飯田）（賛成14反対0）

【協議事項】

1・山岳祭への理事派遣時の交通費・宿泊費を支給することに関して協議した。（坂井）

2・東京新支部構想について協議した。（坂井）

3・リニア中央新幹線トンネル掘削における南アルプス高山生態系への影響についての自然保護委員会からの提案に関し協議した。（飯田）

4・次期理事会の体制について協議した。（古野、柏）

【報告事項】

1・正会員30名、準会員9名の入会承認報告があった。（古野）

2・寄附金13件の受入れ報告があった。（南久松）

3・退職金規定の制定の決定について報告があった。（古野）

4・事務局員の新規雇用に関して報告があった。（柏）

5・ルーム利用に関る人数制限の変更について報告があった。（柏）

6・YOUTH　CLUB交流会2022（in 広島）の報告書発行について報告があった。（松原）

7・アマ・ダブラム隊、マナスル隊カンパについて結果報告があった。（松原）

8・令和5 年度上高地山岳研究所管理人に関わる雇用通知書について報告があった（川瀬）

【その他】

1・「山」3月号発行について（柏）

図書受入報告（2023年3月）

著　者	書　名	頁／サイズ	発　行　者	発行年	寄贈／購入別
星一男(編)	東海山岳 2023　(No.12)	405p／21cm	日本山岳会東海支部	2023	発行者寄贈
早川禎治	坂本直行論:原野に生きる	262p／20cm	早川禎治(私家版)	2023	著者寄贈
柏澄子	彼女たちの山:平成の時代、女性はどう山を登ったか	256p／19cm	山と溪谷社	2023	出版社寄贈
平出和也	終わりなき未踏への挑戦:What's Next?	327p／19cm	山と溪谷社	2023	出版社寄贈
山下順子	風の花II 旅に咲く青いケシ	184p／20cm	Maplart	2023	著者寄贈
日本スポーツ振興センター（編）	新･高みへのステップ:国立登山研修所指導者テキスト（第4部）	169p／30cm	日本スポーツ振興センター国立登山研修所	2023	発行者寄贈
日本スポーツ振興センター（編）	新･高みへのステップ:国立登山研修所指導者テキスト（第5部）	137p／30cm	日本スポーツ振興センター国立登山研修所	2023	発行者寄贈
Chappaz, Gilles (ed.)	ENSA:L'ecole des Sommets 70 Ans de Ski et d'Alpinisme	190p／24cm	Glenat	2015	和田薫氏寄贈

ルーム日誌 3月

1日　記念事業委員会（山岳古道調査）　山行委員会
2日　ＹＯＵＴＨ　ＣＬＵＢ委員会　山岳地理クラブ
6日　緑爽会
7日　スケッチクラブ
8日　ＹＯＵＴＨ　ＣＬＵＢ委員会　休山会
10日　図書委員会
13日　かっぱの会
14日　財務委員会　フォトクラブ
15日　理事会　三水会　つくも会
16日　科学委員会　記念事業委員会（Ｇ・Ｈ・Ｔ）ＹＯＵＴＨ　ＣＬＵＢ委員会（学生部）
17日　記念事業委員会
18日　みちのり山の会　アルピニズムクラブ
20日　総務委員会　フォトクラブ
22日　会報編集委員会　子どもと登山委員会　麗山会
23日　ＹＯＵＴＨ　ＣＬＵＢ委員会（学生部）
24日　自然保護委員会
27日　記念事業委員会（エクアドル登山）　スケッチクラブ
28日　記念事業委員会（Ｇ・Ｈ・Ｔ）00会　平日クラブ
31日　公益法人運営委員会

3月来室者　215名

会員異動

物故

堀田哲男（67402）22・12・29
吉川暢一（70342）23・3・24
岩瀬秀郎（10184）23・3・14
中村喜吉（10978）23・2・2
並木佐吉（11974）23・2・7
鈴木章一（13408）23・3・18
是枝平八郎（14096）22・11・24

退会

今澤　寛（4548）　山梨
広島修道大学山岳部（5875）広島
山下政一（7788）　関西
牧野昭蔵（9057）　北海道
清野　宏（9062）　青森
柴山勝士（9744）　埼玉
大野皓市（10304）
佐藤藤一郎（10915）　山形
西口正司（11029）　青森
田村宣紀（11551）　信濃
高田真歳（11624）　東海
金森　嵩（11769）　岐阜
北口マリ子（11936）
牧野ともえ（12230）　北海道
永峯麗子（12552）　宮崎
鈴木美代子（12623）秋田
小松﨑幸代子（12978）
渡辺泰則（13136）
関根美千子（13139）静岡
益崎健二郎（13389）
小田幸枝（13539）岐阜
佐藤英子（13757）東京多摩
岸本トシエ（13871）福井
脇田幸子（14158）東海
牧野信江（14455）東九州
堺澤清人（14546）信濃
久々湊道夫（14550）
古川雅之（14641）広島
坪井　毅（14756）
安瀬善一（14765）埼玉
松本廣二（14783）埼玉
林　静雄（14860）山梨
森岡裕之（14891）関西
塩月靖浩（14952）東九州
中塚恵子（15061）東海
今徳義宣（15150）東海
湯川敏雄（15177）
鈴木　隆（15252）東海
神谷清子（15268）東海
吉野綾子（15305）広島
土屋信雄（15550）福島
白川　梓（15645）
大塚正数（15673）東海
渡辺千代春（15684）東九州
渡辺和子（15685）東九州
堀　香織（15712）広島
山本由加里（15826）東京多摩
平松有輝子（15868）神奈川
宮川　勉（15873）群馬
前田充一（16009）富山
宮川　徹（16113）
吉冨　明（16114）
株式会社ファーム（16256）富山
下森憲治（16329）広島
下森日出子（16330）広島
川上眞澄（16333）東海
近藤厚史（16349）東海
島田英紀（16365）
野永信夫（16438）
藤吉まゆみ（16443）岐阜
舩橋敏子（16479）東海
生田詳子（16551）埼玉
丸井弘美（16560）東九州
丸井元江（16561）東九州
足達京子（16587）東海
岡本三喜男（16615）福井
原　陽子（16618）
伏屋　満（16632）東海
相澤岳琉（16851）
上田悟史（16852）岐阜
有政凌佑（16857）関西
木村樹美雄（16879）
細田　浩（16881）
福井怜司（16966）東海
武田幸枝（A0252）
市川善二郎（A0253）

塩原琴子（A0300）
新田香織（A0301）埼玉
平　正彦（A0302）関西
川﨑龍一（A0313）広島
棚橋正臣（A0314）
西岡茂子（A0334）東京多摩
和泉由美（A0353）岩手
桧山仁美（A0386）広島
丹羽摩耶（A0388）広島
滝川大地（A0397）広島
小宮佳子（A0452）神奈川
井川雅喜（A0468）京都・滋賀

在籍期限終了離籍

髙田眞澄（A0235）東京多摩
渡辺富子（A0237）東京多摩
海老原聡一郎（A0246）
中島敦子（A0247）東京多摩
土田圭滋（A0249）東京多摩
NICHOLAS MAX HELLER（A0258）
前田光教（A0261）
武藤　了（A0266）
三浦晃慶（A0268）
三浦修治（A0269）東九州
谷島和美（A0271）
増田良太（A0279）
南里陽介（A0282）
八田吉子（A0287）関西
内田健太郎（A0290）
河内幸子　（A0297）山梨
奥村一江　（A0298）埼玉
満島理恵　（A0303）
小路妙子　（A0306）
又吉宗樹　（A0308）
中村啓司　（A0309）東京多摩
新井寿欧　（A0310）広島
小島芽子　（A0312）

正会員に移行離籍

松田慎一郎（A0229）東京多摩
嶋田恵美子（A0231）東京多摩
佐伯享子　（A0232）東京多摩
吉田博子　（A0233）東京多摩
川島ひろ子（A0234）東京多摩
岡野武司　（A0236）関西
加瀬　尚　（A0242）東京多摩
上田謙治　（A0243）山梨
小石真澄　（A0244）
奥迫拓也　（A0248）広島
高橋みゆき（A0251）山梨
杉山明子　（A0255）
茅野修一　（A0256）東京多摩
高山佳代子（A0257）広島
黒沼英美　（A0259）山梨
今中尚哉　（A0262）東京多摩
上原加津維（A0264）東京多摩
吉田　望　（A0265）広島
石川千嘉　（A0267）神奈川
小岩佐千子（A0270）
星野弘美　（A0274）群馬
桐下昌幸　（A0275）静岡
金子貴裕　（A0277）
加々見太地（A0278）
平井　孝　（A0281）埼玉
小林弘美　（A0283）埼玉
福山茂光　（A0285）関西
新川正治　（A0286）岩手
石川貴大　（A0291）
浅井基樹　（A0292）
山田和也　（A0293）
後藤希介　（A0295）
川崎彰子　（A0296）
木下恵子　（A0299）東九州
齊藤大乗　（A0305）
棗　優太　（A0307）
寺田紗規　（A0315）
井川浩彰　（A0363）関西
池ノ内直樹（A0476）京都・滋賀

INFORMATION インフォメーション

◆科学委員会「探索山行」参加者募集―伊吹山のお花畑を訪ねて―

科学委員会

科学委員会主催の探索山行を開催します。科学委員会のメンバー以外に先着20名様を募集します。興味のある方は、科学委員会（kagaku@jac.or.jp）に氏名（および会員の場合は会員番号）、生年月日、住所、メールアドレス、自宅電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先（氏名および続柄、電話番号）を明記の上ご連絡ください。

日時　6月10日㈯～6月11日㈰
集合　6月10日㈯10時　新幹線・米原駅改札出口
テーマ　「日本百名山　伊吹山お花畑の不思議」　昨年開催したフォーラム「登山を楽しくする科学」の実地検証
講師　石井誠治氏（科学委員会委員、樹木医／森林インストラクター）
宿泊　ホテル&リゾート長浜
費用　2万5000円（バス代、宿泊費、入場料など）新幹線代

は別途参加者負担
行動　6月10日㈯　米原駅（貸切バス）＝賤ヶ岳リフト山麓駅―賤ヶ岳往復―伊吹山文化資料館（館内見学・セミナー）―ホテル&リソーツ長浜（泊）　＊昼食は賤ヶ岳にて各自。
6月11日㈰ホテル（貸切バス）＝山頂駐車場―伊吹山山頂往復（ハイキング・見学）―彦根城（見学）―米原駅（解散）14時30分ごろ　＊昼食は伊吹山にて各自。
問合せ　科学委員会事務局長　伊藤謙二（kagaku@jac.or.jp）

◆山行委員会新企画―会員の宿を訪れる山旅シリーズ　【その1】霧ヶ峰ヒュッテジャヴェル

山行委員会

新企画として日本山岳会会員が経営・運営管理する宿を訪れて交流する山旅を企画しました。第1回は、高橋保夫会員が1952年から経営する霧ヶ峰ヒュッテジャヴェルです。今まで多くの会員がハイキングに、スキーに訪れた伝説のヒュッテです。花の季節に薫風の高原を満喫しませんか。
日程　6月21日㈬～22日㈭
集合　6月21日㈬10時　上諏訪駅（予定）
行程　上諏訪駅―霧ヶ峰―八島ヶ原湿原
参加費　1万円
定員　8名
申込み先　高橋　努　☎090-2906-4356　✉tom-tak@bk9.so-net.ne.jP
＊詳細は参加申込み者にご案内します。

◆新入会員のための「徳本峠登山とウェストン祭」企画

山研運営委員会

上高地から新緑の徳本峠往復、翌日はウェストン祭参加の企画です。上高地では山研に一泊、新入会員の親睦を深めていただきます。
日程　6月3日㈯～4日㈰（上高地前泊か夜行バス）
費用　1万円（1泊2食、記念品代、傷害保険料）
定員　10名（令和4年度入会の会員限定、先着順）
申込み　5月27日㈯までに柴山信夫まで。（☎090-8331-4212　✉jac-sanken@jac.or.jp）
＊現地集合・解散
＊申込み者に詳細案内を送付。

◆白籏史朗展―心に山ありて幸いなり―　酒田市美術館

山岳写真家・白籏史朗氏没後初となる回顧展。
会場　酒田市美術館　〒998-0055山形県酒田市飯森山3-17-95　☎0234-31-0095
日時　4月29日㈯・㈰～6月25日㈰　9～17時（最終入館16時30分）
観覧料　一般＝900円、高校生＝450円、中学生以下無料
【関連イベント】益田幸郎氏（本会会員）講演会
「白籏史朗とカナディアンロッキー」　4月29日㈯・㈰　14～15時、同美術館。定員30名。

訂正

会報2月号（933号）6ページ、「引き継がれる山岳祭」プロジェクトがスタートの文中、関連する支部で「関西支部」が欠落、計11支部の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

〈PJリーダー・坂井広志〉

❖編集後記❖

●今月号で、東海支部の清水克宏さんから円空上人に関する寄稿がありましたので、書架で埃をかぶっていた『歓喜する円空』（梅原猛著）を久しぶりに繙いてみました。また、双六小屋の小池潜さんの案内で訪れた高山市の千光寺・寺宝館で、有名な「両面宿儺像」をはじめとする多くの円空仏と対面したときの感激が蘇ってきました。
●清水さんによると、金木戸集落に十一面観音像が残されているとのことですが、若き日に金木戸川を遡上して、九郎右衛門谷から黒部乗越に上がっていますが、歩くことに夢中で全くの素通りでした。清水さんは「『円空の冒険』追跡」計画をお考えだとか、日本の登山史が書き替えられるような発見を期待しましょう。

（節田重節）

日本山岳会会報　山　935号
2023年（令和5年）4月20日発行
発行所　公益社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL　東京（03）3261-4433
FAX　東京（03）3261-4441
発行者　日本山岳会会長　古野　淳
編集人　節田重節
E-メール：jac-kaiho@jac.or.jp
印　刷　株式会社　双陽社